

時事通信社から、『最新 教育キーワード』が初めて刊行されたのは1988年（当時の書名は『教育キーワード―「現代」をとく139の視点 1988―』）でした。それ以降、解説内容のアップデートや掲載項目自体の入れ替えなどの改訂が重ねられ、「第13版」が出版されたのは2009年のことです。その後、約10年のブランクを経て、大幅改訂版としての『最新 教育キーワード―155のキーワードで押さえる教育―』を公刊したのは、今から5年ほど前の2019年7月でした。

私たちは、この5年の間に、日本の学校教育にとって戦後最大の試練ともいえる新型コロナウイルス感染症の世界的流行を経験しました。そして、感染症拡大予防策としての全国一斉休業措置によって露わになったのが、オンラインによる双方向型の授業のために必要な環境整備の立ち後れでした。これを受け、児童生徒への1人1台の端末の支給と各学校における高速ネットワークの整備を主眼としたGIGAスクール構想に基づく施策が、急速に進展したのです。

そして、2021年1月には、中央教育審議会が「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して―全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現―（答申）」を取りまとめ、「新学習指導要領の全面实施」「学校における働き方改革」「GIGAスクール構想」の進展を前提としながら、2020年代を通じて実現を目指すべき学校教育の在り方を「令和の日本型学校教育」として提示しました。さらに2023年6月には、2040年以降の社会を見据えた教育政策におけるコンセプトとして「持続可能な社会の創り手の育成」

と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げた第4期教育振興基本計画が閣議決定されました。今後の教育の方向性を検討する上で不可欠な羅針盤が連続して示されたともいえるでしょう。

本書『最新教育キーワード165のキーワードで押さえる教育』の特集「令和の日本型学校教育と第4期教育振興基本計画」においては、これらの動向のエッセンスを適切に見だし、分かりやすく解説することに注力しました。特集に続く各章においても、項目（キーワード）ごとに充てる紙幅を見開き2ページとし、それぞれ参考文献情報を付記するというこれまでの各版が培ってきた読みやすさを引き継ぎつつ、掲載項目の決定に当たっては教育の「今」を読み解く上で必須となる重要語（キーワード）を厳選して構成しています。

本書の執筆は、1872（明治5）年に日本初の「師範学校」として創設されて以来、日本における教育実践と教育学分野の研究を牽引し続けている筑波大学人間系に所属する研究者と、同大学大学院人間総合科学研究科及びその後身の人間総合科学学術院人間総合科学研究群で教育学関連諸科学を学んだ研究者が担当しました。

学校教育を直接的に支えている現職の先生方や管理職各位、保護者の皆様方、教育委員会や社会教育施設にお勤めの方々などの教育関係者はもちろん、教職を志す学生や大学院生、民間教育事業者など、広く教育に関心をお持ちの多くの方々に本書が活用されますことを心から願っています。読者の皆様方からの忌憚のないご意見やご批判とともに、温かなご助言を賜ることができましたら幸甚に存じます。

特集 令和の日本型学校教育と第4期教育振興基本計画

1	令和の日本型学校教育	藤田晃之	2	9	誰一人取り残されない教育	長田友紀	18
2	第4期教育振興基本計画	藤田晃之	4	10	履修主義と修得主義	田中 怜	20
3	個別最適な学び	小松孝太郎	6	11	文理横断・文理融合教育	田中正弘	22
4	協働的な学び	小嶋季輝	8	12	部活動の地域連携や地域文化クラブ活動への移行	横山剛士	24
5	ウェルビーイング (Well-being)	佐藤博志	10	13	教育におけるエビデンス	平井悠介	26
6	GIGAスクール構想	村田翔吾	12	14	Society5.0に向けた教育	山本容子	28
7	VUCAの時代	ヤン・ジャヨン	14	15	STEAM教育	磯田正美	30
8	教育デジタルトランスフォーメーション	蒔苗直道	16				

第1章 学校・学習支援機関

1	学校	大谷 奨	34	5	幼稚園、保育所、認定こども園	後藤みな	42
2	学級	早坂 淳	36	6	学校安全	桜井淳平	44
3	一貫教育	樋口直宏	38	7	学校教育の中のジェンダー	國分麻里	46
4	インターナショナルスクール、日本人学校	補習授業校 梅津静子	40	8	LGBTQと学校	留目宏美	48
				9	学校教育の中の宗教	田中マリア	50

第2章 教育行政・教育施策

1	教育政策	古田雄一	86
2	教育制度	藤井穂高	88
3	教育財政	内山絵美子	90
4	教育の機会均等と公平	藤井穂高	92
5	教育の公共性・中立性と自由	藤井穂高	94
6	文部科学省	藤田祐介	96
7	子ども家庭庁	藤田祐介	98
8	教育関係審議会と教育改革	平田敦義	100
9	教育委員会	平田敦義	102
10	教育関連の国際機関	川口 純	104
11	グローバル化と教育改革	タスタンベコワ・クアニシ	106
12	法律、政令、省令、通知	福野裕美	108
13	教育基本法	星野真澄	110
14	教育公務員特例法	藤田祐介	112
15	子ども基本法	古田雄一	114
16	生きる力	藤田晃之	116
17	学習指導要領	根津朋実	118
18	「学力の三要素」と「資質・能力の三つの柱」	藤田晃之	120
19	カリキュラム・マネジメント	根津朋実	122
20	社会に開かれた教育課程	根津朋実	124
21	主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）	勝田 光	126
22	地理総合、歴史総合、公共	唐木清志	128

10	学校経営	浜田博文	52
11	スクールリーダー	浜田博文	54
12	リーダーシップ、ファシリテーション、コンサルテーション	佐藤博志	56
13	チームとしての学校	末松裕基	58
14	開かれた学校づくり	末松裕基	60
15	P T A	鈴木 瞬	62
16	校務分掌	浜田博文	64
17	学校選択	佐藤博志	66
18	学校評価	佐藤博志	68
19	教育課程とカリキュラム	根津朋実	70
20	スタートカリキュラム	石毛久美子	72
21	小学校の教科担任制	小野明日美	74
22	小学校における外国語教育	名畑日真吾	76
23	少人数学級と少人数指導	星野真澄	78
24	高等学校の多様化と普通科改革	岡部善平	80
25	W W L、C O R Eハイスクール・ネットワーク、マイスター・ハイスクール	川口有美子	82

第3章 教師

10	教員研修		
9	教員評価		
8	教員の職務とコンプライアンス	山田知代	174
7	教員の職務	小野瀬善行	172
6	教員に求められる資質能力	加藤崇英	170
5	教員の専門性	朝倉雅史	168
4	教員採用選考試験の早期化・複数回化	勝田 光	166
3	教職大学院	橋場 論	164
2	教員免許	小野瀬善行	162
1	教員養成の歴史	平田論治	160
11	教員人事	牧瀬翔麻	182
12	教員の同僚性	加藤崇英	180
13	教員のメンタルヘルス	田邊良祐	184
14	教員の待遇	朝倉雅史	186
15	学校における働き方改革	田中真秀	188
16	ハラスメント	小牧毅司	190
17	体罰と懲戒	山田知代	192
18	学校に置かれる教員以外の専門スタッフ	横山剛士	194
19	保護者との関係と対応	牧瀬翔麻	196
23	総合的な学習（探究）の時間	早瀬博典	130
24	特別の教科 道徳	川上若奈	132
25	教科書と教科書使用義務	早坂 淳	134
26	デジタル教科書とデジタル教材	中園長新	136
27	教育情報セキュリティ	古賀竣也	138
28	子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画	宮澤優弥	140
29	P D C A サイクル	照屋翔大	142
30	学校の情報公開	末松裕基	144
31	学力調査	花園隼人	146
32	T I M S S、P I S A	清水美憲	148
33	コミュニティ・スクール	照屋翔大	150
34	奨学金制度	福野裕美	152
35	大学入試改革	大谷 奨	154
36	ゆとり教育	佐藤博志	156

第4章 子供・家庭・社会

1	子どもの権利	半田勝久	200
2	子供の自己肯定感	中井大介	202
3	子供の体力・運動能力と健康	横山剛士	204
4	思春期、青年期	中井大介	206
5	少年非行、逸脱	桜井淳平	208
6	いじめ	江角周子	210
7	不登校とひきこもり	江角周子	212
8	暴力行為	花屋哲郎	214
9	発達障害	米田宏樹	216
10	2 E (twice-exceptional) の児童生徒	藤田晃之	218
11	帰国・外国人児童生徒と教育	本多 舞	220
12	養護教諭と保健室	留目宏美	222
13	スクールカウンセラー	飯田順子	224
14	スクールソーシャルワーカー	中井大介	226
15	放課後子ども総合プラン	鈴木 瞬	228
16	家庭教育	田中マリア	230
17	家族の変容	上田孝典	232
18	経済格差と学力	國分麻里	234
19	貧困と教育	國分麻里	236
20	ヤングケアラー	徳永智子	238
21	子育て支援	内山絵美子	240
22	虐待	石毛久美子	242
23	学社融合	上田孝典	244
24	社会教育と生涯学習	上田孝典	246
25	NPOと教育	田中真秀	248
26	CSR	石嶺ちづる	250
27	人口減少社会における教育	橋場 論	252
28	社会情動的スキル	遠藤優介	254
29	情報化社会と情報リテラシー	中園長新	256

第5章 学びを支える理論

1	教育の理念と目的	平井悠介	260
2	教育権と学習権	星野真澄	262
3	学校論の系譜	平田論治	264
4	児童中心主義	小嶋季輝	266
5	陶冶と訓育	早坂 淳	268
6	系統主義と経験主義	木村範子	270

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7
エスノセントリズム・レイシズム	グローバルリズムとナシヨナリズム	オルタナティブ教育	教育ニーズの多様化への対応	職業教育	食育	いのちの教育	子どものための哲学 (P4C)	主権者教育	サービス・ラーニング	シテイズンシップ教育	人権教育	民主主義と教育	教育と社会正義	気候変動問題と教育	ラーニング・コンパス (学びの羅針盤)	キー・コンピテンシー	E S D (持続可能な開発のための教育) と S D G s	エスノグラフィとアクションリサーチ	メタ認知	教育評価	授業研究	教育方法学	学習指導
梅津静子	平田論治	澤田裕之	澤田裕之	石嶺ちづる	後藤みな	山本容子	平井悠介	唐木清志	唐木清志	平井悠介	菊地かおり	平井悠介	高野貴大	山本容子	金 玟辰	遠藤優介	井田仁康	岡部善平	遠藤優介	菊田尚人	蒔苗直道	樋口直宏	樋口直宏
318	316	314	312	310	308	306	304	302	300	298	296	294	292	290	288	286	284	282	280	278	276	274	272

41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
若者論の動向	生成 A I と学校教育	特別活動	キャリア教育と進路指導	生徒指導	ガイダンスとカウンセリング	インクルーシブな教育と合理的配慮	特別支援教育	教育開発援助	国際バカロレア	多文化教育
徳永智子	中園長新	京免徹雄	藤田晃之	花屋哲郎	京免徹雄	川口 純	米田宏樹	長田友紀	平 明子	タスタンベコワ・クアニシ
340	338	336	334	332	330	328	326	324	322	320

編著者・執筆者一覧

令和の日本型学校教育と 第4期教育振興基本計画

- 1 令和の日本型学校教育
- 2 第4期教育振興基本計画
- 3 個別最適な学び
- 4 協働的な学び
- 5 ウェルビーイング (Well-being)
- 6 GIGA スクール構想
- 7 VUCA の時代
- 8 教育デジタルトランスフォーメーション
- 9 誰一人取り残されない教育
- 10 履修主義と修得主義
- 11 文理横断・文理融合教育
- 12 部活動の地域連携や地域文化クラブ活動への移行
- 13 教育におけるエビデンス
- 14 Society5.0 に向けた教育
- 15 STEAM 教育



1 令和の日本型学校教育

Summary

「令和の日本型学校教育」とは、中央教育審議会が2021年1月に取りまとめた答申において提示した「2020年代を通じて実現を目指す学校教育」の姿である。子供たちの知・徳・体を一体で育んできたこれまでの「日本型学校教育」のよさを生かしつつ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として充実させることを企図している。

▼ 令和の日本型学校教育とは

2021年1月、中央教育審議会は「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」と題する答申を取りまとめた。

答申では、これまでの日本の学校教育が、学習指導のみならず、生徒指導の面でも主要な役割を担い、児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子供たちの知・徳・体を一体で育んできたと呼びつつ、これを「日本型学校教育」と呼んでいる。その上で答申は、社会の在り方が劇的に変わる「Society 5.0時代」の到来や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」の

中で再認識された学校の役割や課題を踏まえ、かつ、令和時代の始まりとともに生じた「新学習指導要領の全面实施」「学校における働き方改革」「GIGAスクール構想」の進展を前提としながら、2020年代を通じて実現を目指す学校教育の在り方を「令和の日本型学校教育」と名付け、その具体像を「第一部 総論」と「第二部 各論」に分けて提示したのである。

▼ 目指される資質能力

このような状況下、令和の日本型学校教育によって育むべき資質能力について、答申は次のように述べている。

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる

他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。
(第一部1)

ここで示された資質能力は、OECD（経済協力開発機構）が2019年に提示した「ラーニング・コンパス」において、子供たちがウェルビーイング（Well-being）を実現していくためには自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力が重要となると指摘したことを含め、国際的な資質能力論の潮流を視野に収めて構想されたものである。

▼ 資質能力を育む方策

このような資質能力を育もうとする令和の日本型学校教育の具体的な姿について答申は、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」とした。ここではICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備による「個別最適な学び」と、探究的な学習や体験活動

References

□新しい学習指導要領を研究する会／編著（2022）『令和の日本型学校教育』Q & A』明治図書出版

「誰でも答申の趣旨が分かる『令和の日本型学校教育』Q & A』及び「いますぐ各教科の学びのポイントが分かる『令和の日本型学校教育』Q & A』の2部構成となっている。

□日本教師教育学会／編（2023）『令和の日本型』教育と教師—新たな教師の学びを考える』学文社

2021年11月に中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会が「審議まとめ」を出したことを受け、緊急企画として実施された「令和の教師教育改革」に関する2度の学習会と公開シンポジウムの内容をまとめたブックレット。

□奈須正裕／著（2021）『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版社

山形県天童市立天童中部小学校における実践を事例として、「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実」の実現可能性を探る。

*表A 個別最適な学びと協働的な学び

個別最適な学び【学習者視点】（=個に応じた指導【教師視点】）
子供が自己調整しながら学習を進めていく
指導の個別化
✓子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じ、 ✓教師は必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫 →一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める
学習の個性化
✓子供一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、 ✓教師は一人一人に応じた学習活動を行う →異なる目標に向けて、学習を深め、広げる
協働的な学び
✓子供一人一人のよい点や可能性を生かし、 ✓子供同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働する →異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す

出典：文部科学省（2021）『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）【総論解説】を基に作成

等を通じ、子供同士あるいは多様な他者と協働しながら学ぶ「協働的な学び」とを一体的に充実することが目指されている（表A）。

「個別最適な学び」とは、これまで教師の視点から「個に応じた指導」と呼ばれてきたものを、学習者である児童生徒の視点から捉えたものであり、「指導の個別化」と「学習の個性化」によって構成される。そして、この「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、従来から「日本型学校教育」において重視されてきた「協働的な学び」も一体化させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授

▼今後の方向性

業改善につなげることを企図したのである。

答申は、知・徳・体を一体的に育むという日本型学校教育の本質的な役割を重視し、継承していくことを前提としつつ、「令和の日本型学校教育」の今後の方向性として次の4点を挙げている。

- 国が、学校教育を支える人的資源・物的資源を十分に供給・支援すること
- 学校と地域住民等との連携・協力体制を拡充すること
- 一斉授業か個別学習か、履修主義か修得主義か、デジタルかアナログか、遠隔・オンラインか対面・オフラインかといった「二項対立」の陥穽（かんせい）に陥らず、教育の質の向上のために、どちらの良さも適切に組み合わせることを目指していくこと
- 教育政策のPDCAサイクルを着実に推進していくこと

（藤田晃之）